

JICA次世代育成研修報告 引率者 アチバイア文協日本語学校 加藤みえ

2014年1月6日現地出発、同8日に日本に到着。近くて遠かった憧れの国「日本」で親元を離れて暮らす研修生はブラジル、アルゼンチン、ペルー、ボリビア、パラグアイからの13歳から16歳の36名。日系2世から4世まで、日系人としての考え方も歴史背景も異なっているが、皆、日本という国への「思い」は、深くて篤いものがあるように感じた。そして、彼らが刻み続ける新しい日系の歴史は、明るく輝かしいものであると確信させてくれる研修だった。

次世代育成研修は全て日本語で行われ、主にJICA横浜研修センターや移住資料館、歴史博物館、リサイクルセンターなどで日系人の移住の歴史や日本文化などを学び、大阪、京都、神戸では日本のモノ作りや歴史建造物を見学し、移民の歴史の足跡を辿った。また、横浜市の公立中学校に体験入学をしたり、一般家庭にホームステイしたりもした。

研修はグループで学ぶことが多く、彼らは「協力すること」や「ルールや時間を守ることを自然に覚えていった。

研修生は毎日、同じ場所で、同じものを食べ、同じ時間を過ごし、いつも一緒にいた。母語がポルトガル語とスペイン語と違うので、日本語で会話したり、お互いの言語を教え合ったり、ラテンアメリカ5か国間の違い、食生活から学校の仕組み、日系社会の様子や国の情勢などいろいろ学び、自分と違う考え方を肌で理解していたようだ。いつの間にかこの仲間がお互いに特別な存在になっていき、そして、一生の宝物を手に入れていた。友情、大切なかけがえのない仲間。彼らは実に素直にお互いの長所を認め合い、そのいい影響を受け、そして自分を高めていった。大切な友がいる人生は豊かだ。

研修生のルーツは日本にある。「日本」の良いところを吸収して、自分の国に持って帰るぞ！という気持ちが伝わってきた。熱心に講師の方のお話を聞き、質問し、実際に自分の目で日本を見て、触れて、それぞれの根を深く太く強いものにして、日系人としての誇りを強めていった。

また、授業はたった一度だけのものや、期間の短いものばかりなので、少ないチャンスを生かすこと、自分から積極的に働きかけること、勇気を出して何でもやってみるものの重要性を理解していった。そうして、彼らは、今までの自分をいつの間にか超えていた。

この研修を生徒の言葉で表すと「とてもとてもとても楽しかったです。みなさんにありがとう！」だ。毎日の宿題や作文で「ありがとう」「感謝」「おかげさま」「ご縁」という言葉をよく目にした。本当に心の奥底から楽しいと感じ、「ありがとうございます。」と感謝できる貴重な経験が出来た研修だった。

これから彼らが、さらにたくさんの人生の宝物を増やしなが、広い視野で、異なる文化を認め合いながら、日系社会に貢献する人材として、感謝の気持ちを忘れず、自分の国で世界でどんな影響を与えていくのかとても楽しみだ。

最後に、改めて研修に関わって下さった皆様、また日系移民の先輩方にお礼を申し上げます。心から本当にありがとうございました。



中学校体験入学へのオリエンテーションの1コマです。
わからない事があったらすぐに何でも積極的に素直に質問していました。



リズムを体を使って覚えている様子です。
なんでも楽しんで一生懸命恥ずかしがらずに参加できました。